

デイゴの赤い花は初夏を①彩(いろど)る沖繩の県花である。南の島の風物詩だが、この花の時期になるとふさぎ込む人が少なくないという。沖繩戦の記憶がよみがえるからだ。70年前のデイゴの季節に、②ヒサン(悲惨)をきわめた地上戦は始まった▼「人々が③ホウダン(砲弾)の下を逃げまどう道のかたわらに、血まみれの肉親を抱きかかえるその頭上に、デイゴの花は咲いていたのです」。息子2人と娘、それに兄と母を失ったコザ市(現沖繩市)の元市長、(1)故大山朝常さんが、つらく悲しい記憶をつづっている▼戦時中、大山さんは青年学校の校長だった。軍の指示で約600人の生徒を戦闘協力に送りだす。半数が帰らなかった。④バンネン(晩年)に取材で訪ねると、昔の話をした夜は眠れなくなると、⑤シボ(絞)るような声で語っていた▼デイゴの花咲く初夏を沖繩では「うりずん」と呼ぶ。〈うりずんの雨は血の雨涙雨 礎の魂呼び起こす雨〉。そんな短歌を『沖繩 うりずんの雨』というドキュメンタリー映画で知った。この季節のよびさます情念が濃厚に伝わってくる▼⑥礎(いしじ)とは、沖繩戦などの死者20万人余の名を刻んだ「平和の礎」のこと。映画は、戦後も米国の⑦戦(いくさ)に⑧コクシ(酷使)されてきた基地の島を、様々な証言を重ねて描き込む。米国人の監督は、(3)米軍は沖繩を「戦利品」として扱ってきたとみる▼日本政府も容認してきたということになる。⑨辺野古(へのこ)への新基地建設をめぐり、沖繩と本土が厳しく⑩対峙(たいじ)するなかで迎える慰霊の日。もう一步、もう二歩、沖繩のことを深く知りたい日だ。

〔2015年6月23日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを答えなさい。

問二 次の(あ)～(え)に適する語を、後の語群から選び書き入れよう。

- ・ 沖繩県糸満市米須に1946年2月に建てられた。戦後、遺骨だらけだった一帯から住民の手で約3万5千の遺骨が納められた↓(あ 魂魄)の塔。
- ・ 沖繩では自然洞窟のことを(い ガマ)と呼ぶ。
- ・ 日本軍にとって沖繩は「(う 時間)稼ぎの戦場」だったといえる。
- ・ 日本軍は県民へも「生きて虜囚の辱めを受けず」との戦陣訓を徹底したため、住民は(え 集団自決)に追い込まれた。

〔語群〕ひめゆり 魂魄 ケイブ ガマ 空間 時間 集団自決 集団疎開

問三 次の傍線部(1)の著書『沖繩独立宣言』の一部要約である。(か)～(け)に適する語を、後の語群から選び書き入れよう。

「長年の復帰運動の果て、沖繩にもたらされたのは、過酷な(か 基地)被害だけでした。とうとう一昨年(1995年)の米兵3人による(き 少女)暴行事件が起こったのです。『祖国復帰』とは、いったい何だったのでしようか。私たちがあれほど思いを込めて復帰を望んだ『祖国日本』は、沖繩にとって(く 幻)だったのです。(け 日本)は帰るべき『(こ 祖国)』ではなかった」

〔語群〕基地 現実 少女 娼婦 戦争 祖国 幻 日本 米軍

問四 傍線部(3)とはどういうことか。35字程度で説明しよう。

〔答例〕(米軍の都合を優先し、沖繩の住民や土地を動かし使用してきたこと。)